

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社 評価基準研究所

② 施設・事業所情報

名称：木下の保育園 本牧	種別：認可保育所
代表者氏名： 所 綾子	定員（利用人数）： 78名
所在地：〒231-0806 神奈川県横浜市中区本牧町1-36-20	
TEL：045-623-8131 -	ホームページ： www.kinoshitahoiku.com/facility/honmoku
【施設・事業所の概要】	
開設年月日： 2013年（平成25年）4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 木下の保育	
職員数	常勤職員：17名 非常勤職員：6名
専門職員	保育士 17名 栄養士 2名
	看護師 1名 調理師 1名
施設・設備の概要	（居室数）保育室 6室、事務室、調理室、医務室、園庭
	（設備等）トイレ（子ども用2大人用1）、バリアフリースイレ、シャワー、沐浴設備、エレベーター、冷暖房

③ 理念・基本方針

保育理念 “生きる力を創る”

保育方針

- ・協調性を持ち、他者を尊重し認め合う心を育てる
- ・のびのびと自己表現ができる環境を提供する
- ・試行錯誤をする中で考え創造し、自分で判断する力を養う
- ・探索活動を大切にし、こどもの興味や関心に寄り添う

④ 施設・事業所の特徴的な取組

本園では、コーナー保育と異年齢保育を行っています。子どもの主体性を大切に、興味・関心があることを楽しむことができる環境作りを目指しています。3～5歳児は合同・異年齢で過ごし、天気の良い日にはグループで散歩に行きます。0～2歳児クラスはクラス別にコーナーを設定し、安心できる場所でじっくりと遊びこめるようにしています。天気の良い日は園庭遊びを中心にしています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年4月12日（契約日） ～ 2025年4月2日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（平成26、令和元年度）

⑥ 総評

◇特長や今後期待される点

特に評価の高い点

1) 【業務の効率化やチーム力向上のために新たなチャレンジを続ける意欲が高い】
園長は、業務の効率化と職員の働き方の改善に高い意欲を持ち、積極的に取り組んでいる。法人が全園導入を進める前に、自主的にICTツールを導入し、さまざまな活用方法を試みるなど、効率化を図る姿勢が強い。また、職員間の関係を良好にし、チー

ム力を向上させるための工夫も行っている。その一例として、職員同士が感謝の気持ちを伝え合う「サンクスカード」を導入し、職場の雰囲気をもっと良くする取り組みを実施している。こうしたチャレンジは今後も継続していくべきであり、さらなる業務改善とチーム力向上につなげるためには、園長の意図を職員全員にしっかりと伝えることが重要であろう。園全体で共通認識を持つことで、職員一人ひとりが主体的に業務改善に取り組む環境が生まれ、より良い職場づくりが進んでいくと思われる。

2) 【体験活動を通して食への興味や関心を高め、子どもの活動の幅を広げている】子どもたちが栽培や調理の体験を通じて食への興味や関心を深められるような取り組みを行っている。栽培活動では、子どもたちが希望する野菜の苗や種を選び、植え付けから生育の観察、収穫までを体験し、それを給食の食材として味わうことで、食へることへの意識を高めている。また、食材の一つである魚に注目し、魚の姿を知る機会が少なくなっている現状を踏まえ、毎年魚の解体を実施している。子どもたちは目の前で一匹の魚が調理されていく様子を観察し、食事として提供されるまでの過程を学ぶとともに、魚の生態にも関心を持つようになっていく。そのため各保育室には魚の種類や特徴が分かるイラストや模型、図鑑を設置し、子どもたちが自然と学べる環境を整えている。こうした体験がさらに子どもたちの興味関心を広げ、新たな活動へとつながることを期待している。

3) 【保護者や児童が発言しやすい良い文化が形成されている】児童は毎日サークルタイムがあり、「楽しかったこと」「頑張ったこと」「嫌だったこと」などテーマ別に発言する機会が設けられており、意見や思いを発言し聞いてもらえる習慣が身についている。話を聞いてもらえる成功体験を何度もすることで、発言しやすい環境ができていく様子である。また、保護者においては自由に伝えたいことを書き出したり手紙を掲示できる保護者用の掲示板があるのが画期的である。この掲示板は、保護者から保護者へ、保護者から保育園へへのメッセージを記入できる。また、アンケートを電子配信で依頼する際も自由記述の項目を用意し、さらには他の保護者には公表しないことが約束され、保護者が自由に意見しやすい環境が充実している。運営委員会を的確な立ち位置におき保護者と園の意思疎通を図っている。

今後さらに期待される点

1) 【園として力を入れたいことを反映させた事業計画を作成し、園が進むべき方向を全職員が意識できるようにしてほしい】

本社の方針を基にした園の中・長期事業計画は作成されているが、園として特に力を入れたい点が十分に反映されていないのが現状である。当園が重点を置きたいのは、地域の子育て拠点としての機能を充実させること、そして「望ましい人物像」に沿った職員育成である。園では地域への働きかけを進め、メンター制度を活用した新人育成にも取り組んでいるが、これらの方針が事業計画に明確に位置付けられていない。力を入れたい取り組みを計画に反映させることで、職員は目指すべき方向を理解しやすくなり、次の施策も着実に検討できるようになるだろう。事業計画の明確化とともに、現在の取り組みの意図も明文化し、全職員が園の方向性を共有できる環境を整えることにも取り組んでほしい。

2) 【日々の保育の連続性と長期的な保育の方向性がより具体化される記録の作成に取り組むことに期待する】

現在、年間指導計画に基づき、異年齢保育やコーナー保育の環境構成を通じて、子どもたちは自主的・自発的な生活や活動を展開している。今後、異年齢保育の発達的な

効果をより明確に捉えるために、異年齢保育の指導計画を作成し、「育つ子どもの姿」「ねらい」「活動内容」「保育士の援助」などの見通しを持った保育を実践することが重要である。これにより、保育の質の向上が期待できる。また、現在は保護者向けに写真とコメントを添えた記録を作成し、保育の様子を伝えているが、保育士自身が「ねらい」に基づいた記録を取ることで、日々の保育が連続性を持ち、長期的な方向性がより具体化される。現在の記録の仕組みをより発展させ、次の保育につなげる取り組みが進むことを期待する。

3) 【実践している素晴らしい取り組みを園全体の事業として確立することが望ましい】

当園は地域とのつながりや連携を自然に実践しており、他法人の保育園との交流や、小学校との合同避難訓練、関連施設へのおたより配布など、素晴らしい取り組みが多く見られる。例えば、5歳児同士が園舎を案内し合う見学会や、夏祭りでの制作物を使って遊ぶ交流、リレー大会などが行われている。しかし、これらの取り組みは地域連携の実績として公表されておらず、職員の認識も低いように感じられる。これは地域連携の重要性が理解されていないというよりも、明確な計画として文書化されていないことが要因ではないかと考えられる。今後は、これらの取り組みを自然な実践に任せるだけでなく、具体的な計画や目標を設定し、園全体の方針として位置づけることが重要である。そうすることで地域連携の取り組みが継続的な事業として確立され、さらなる発展につながるだろう。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

アドバイスを頂いた項目について、日頃よりうまくいかない・やりづらさを感じていたので、第三者の目で見ってもらうことによって、どのように改善が必要かを具体的に知るよい機会となった。今回のアドバイスをもとに、今後最優先で実行・実践して改善していきたい。また、自分たちの取り組みの良い部分を評価していただき自分たちの良い部分を知るよい気づきとなった。評価されたことを継続し大切にしつつ、子どもたち・保護者・近隣・職員にとってより良い園となれるよう向上していきたい。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり